

この本は、以下のような方々に効果があります。

① 「自分の言葉」で語ることができないために、人から軽く見られて人生を損しているあなた。

② 自分のモヤモヤした気持ちをうまく言葉にできなくてモヤモヤしているあなた。

③ 部下が自分の言葉で語らないのにイライラしている上司。上司が自分の言葉で語らないのにイライラしている若手社員。

「自分の言葉で語れない人」は、 一生損をする

「自分の言葉で語りなさい」

年上の人からこんなセリフ言われたことありませんか？

「君には自分の言葉というものが無いのか？」

借り物の言葉でしか語ることができない部下や若者に、こう言いたくなったことありませんか？

「自分の言葉」を初めて意識するのは、多くの場合、就職活動をはじめた頃。

「自分の考えを、自分の言葉で語ることが一番面接官には響くんだよ」

OB訪問などで言われる。でも何だか意味がよくわかりません。それもそのはず。

学校で「自分の言葉で語る技術」なんて教えてくれません。

学生時代には「自分の言葉」や「自分の考え」なんて必要なかった。むしろそんなものもたない方が、波風を立てずにうまくやってこれたのです。

社会人になるとそうはいきません。

「自分の言葉で語れない人」は、人生のすべての場面で損をします。

就職活動で内定をなかなかもらえません。

会社に入ってから評価されません。

平たく言えば、軽く扱われます。

たとえ心の中でどんなに深いことを考えていたとしてもです。

ネット時代になり、情報が簡単にコピー（コピー&ペースト）複製して貼りつけるの（意）でできるようになりました。

ますます「自分の言葉で語る」ことが求められています。自分の言葉で語れないと、伝えたいことが伝わりません。

「借り物の言葉でしか語れないヤツ」と思われたら、もうアウトです。

底の浅い人間だと思われてしまいます。

書き言葉でも話し言葉でもそれは同じ。

先輩社会人はそれを身にしみて知っているから、就活生や若手社員に「自分の言葉で語りなさい」とつい言ってしまういたくなるのです。

この本を手にとったあなたは、おそらく「もっと自分の言葉で語れたらいいのに」と思っている方でしょう。

そんなあなたにいいニュースがあります。

『自分の言葉で語る技術』は、ちよつとした勇氣とコツと訓練で、ある程度のレベルまでは習得することができる」ということです。

「自分の言葉は、自分の考えを表現するもので、心の内側からわき出てくるものである。テクニックなんかで身につくものではない」と考える方もいるかもしれませんが。

確かにそうであることが望ましいでしょう。しかし、確固たる自分の考えをもち、自分の言葉で飾ることなく語れる人物は少ないはず。

多くの凡人は、揺るぎない確固たる「自分の考え」などもっていません。その時々で、

まわりの言葉に大きく影響されます。

凡人の私たちだって、まったく何も考えていないワケではありません。いろいろと頭の中では考えているのだけど、うまく整理できないのです。また自分の考えがはっきりあっても、適切な言葉で表現できないこともあります。

だから本書を書こうと思いました。

本書は「自分の言葉で語る」ことが苦手な人に向けて、58の技術を提示していきます。心構えの問題から純粹なテクニックまで内容はさまざま。きっとあなたが「自分の言葉」で語る上で、役に立つ技術が含まれているでしょう。

考えてみてください。あなたが自分の言葉で語れないことで、今までの人生をどれだけ損してきたかを。このまま将来まで続けば、どれだけ損失になるかを。

ほんの少しでもいい。「自分の言葉で語る」ができること、周囲のあなたを見る目は確実に変わります。一目おかれるようになるのです。

ビジネスや仕事の場面に限りません。日常生活においてもしかり。コミュニティ内、友だち同士、家庭内、恋愛においても同様の効果が期待できます。

就職や転職活動などは、「自分の言葉で語る」ことができるかどうか」だけで決まると言

自分の言葉で
語る技術
その
01

「借り物の言葉をそのまま使わない」 と決意する

本書があなたにとって「釣り針のつくり方」の役割を果たす本になれば、これほど嬉しいことはありません。

……という意味です。

魚をあげたら今日一日の飢えはしのげるかもしれない。ただ、食べてしまったら明日また飢えてしまう。
釣り針を与えれば明日もまた魚が釣れる。でも釣り針は魚にくいちぎられたら終わり。だからこそ、「釣り針のつくり方」を教えてあげるのが一番いい。

つてもいい。
「自分の言葉で語る人」になるためには、まずは「借り物の言葉をそのまま使わない」という決意をすることです。
当たり前といえば当たり前ですが、まずはそこからです。
「借り物の言葉をそのまま使わないこと」を実行するだけでも「自分の言葉で語る人」に近づけます。
中国の諺に以下のようなものがあるそうです。

「飢えている人には、魚をあげるよりも釣り針をあげるほうがいい。
釣り針をあげるよりも釣り針のつくり方を教えてあげる方がいい」